

大学院生物資源産業学研究部を新設

2016年(平成28)4月

2016(平成28)年4月に、生物資源産業学部が設置されると共に、教員組織として大学院生物資源産業学研究部が設置された。本研究部は、応用生命系、食料科学系、生物生産系の3つの系で構成され、初代の生物資源産業学研究部長には辻明彦教授が就任した。研究部組織は、工学部生物工学科、総合科学部環境共生コース、医学部栄養学科、歯学部、及び薬学部からの教員と新たに外部から採用した教員で編成された。教員数は、教授12名、准教授15名、講師9名、助教9名の合計45名であり、農学系学部として農林畜水産の全ての分野を網羅する教員を有する体制となった。本研究部は、生物資源を活用した新たな産業の創出、一次産業や食品産業の成長産業化、並びに地域1次産品の6次産業化等により、地域を活性化すると共に国際的に優れた生物資源の創生を研究目的としている。本目的に基づき、医化学的手法による生物資源の成分やそれらの誘導体のヘルスサイエンスへの応用と製品化等に関する研究、生物資源の新

しい機能の分析と高付加価値食品の創生等に関する研究、ゲノム編集等の新しい育種・品種改良法の開発と有用生物の育種や医療への応用に関する研究、地域特産物の特性に基づく6次産業化に関する研究、LEDを活用した植物工場による農業のスマート化に関する研究、並びに未利用生物資源の有効利用と高機能化に関する研究等、バイオとフードとアグリを融合した研究を開始した。

本研究部の教員は、常三島キャンパスのみならず、石井キャンパスにおいても研究を開始した。石井キャンパスには、生物資源産業学部農場、植物工場、食用昆虫の飼育施設、さらに我が国における有数の疾患モデルブタ作製施設であり再生医療技術の高度化等を目的とする「創薬・医療機器開発施設」が設置された。一方、研究部設置と共に鳴門市には海産資源の効率生産等を目的として水圏教育研究センターが設置され、有用海藻の陸上栽培等を開始した。

